

編集後記

『戦史研究年報』第9号をお届けいたします。

平成16年度の戦史部研究員による研究成果の中から3篇を、「論文」として掲載いたしました。この3篇のキーワードは「研究の希少性」です。

まず石田論文は、戦後史の中でも、まだ研究が比較的少ない防衛庁史を扱ったものです。具体的には1948年から52年までの間の戦後日本の海上防衛力整備、中でも海上防衛における日米の「役割分担」の起源に焦点をあてました。防衛庁創立50年を越え、当時の生存者も少なくなる中、本論文が今後の防衛庁・自衛隊史をめぐる議論の参考となれば幸いです。山村論文は、軍事史の中でも先行研究が数少ない旧軍の人事評価を扱いました。先行研究は、どちらかといえば、エリート選抜に関する統計的なものを扱ったものが多い中、山村論文は旧軍の勲章と武功認定に関する事項に絞り、これをまとめたものです。さらに山本論文は、現在でもあまり知られていない軍艦爆沈事故と海軍当局の対応・実態、特に査問会による事故調査の実態とその規則変遷に焦点をあて、検証したものです。いずれも未開拓の分野であり、今後の研究の進展が期待されます。さらには投稿論文として、古代・中世・近代から朝鮮戦争を経て現代にいたるまでの日韓の史的関係を改めて見つめなおした林論文、シュリーフェン計画の本質の追求を試みた石津論文も加えて掲載しております。

「研究会記録」はロンドン大学LSE准教授 アントニー・ベスト先生による「イギリスのインテリジェンスと太平洋戦争の勃発」を紹介いたしました。ベスト先生は、日英関係に関する研究、特に戦前・戦中の日英関係に関する権威として英国のみならず日本においても著名な軍事史学者であります。本報告は、未発掘の史料に依拠しつつ、実証的に検証した論文であります。

「国際会議参加報告」は、マドリッドで開催された第31回国際軍事史学会大会、韓国で開催された朝鮮戦争国際シンポジウム及びキャンベラで行われたオーストラリア空軍歴史会議の概要報告をそれぞれ掲載いたしました。また、戦史部員による「国際会議発表論文紹介」を掲載いたしました。

「史料紹介」は、本号掲載の論文「旧軍の人事評価」及び「軍艦爆沈事故と海軍当局の対応・実態」の2分野に関する史料を、それぞれ2点、合計4点を選定し、写真とともに紹介させていただきました。「活動報告」は、戦史関連研究会、オーラル・ヒストリーによる史資料整備の新しい取り組み、及び戦史史料編さん活動、防衛研究所図書館史料閲覧室の活動状況、戦史史資料の審査と公開に関する事項を紹介しております。

最後に、本号発行のために御協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げ、「編集後記」といたします。

(濱田 秀)

編集委員

林 吉 永 (委員長)

山 村 健

庄 司 潤一郎

塚 本 隆 彦

大 場 一 石

編集スタッフ

濱 田 秀 野 村 佳 正 菅 野 直 樹

戦史研究年報 第9号

発行日 平成 18 年 3 月 31 日

編 集 防衛庁防衛研究所戦史部

発 行 防衛庁防衛研究所

〒 153-8648 東京都目黒区中目黒 2-2-1

電話 03-5721-7005 (代表)

ISSN 1345-5117

© 無断転載を禁ず